

民間英語検定試験の活用

今すぐ見直しを！

2021年1月の大学共通テストで活用される、英語の民間試験について、大学、高校関係者、教員、高校生たちが次々と反対、利用中止の声を上げています。

共通テストへの民間試験活用には、検討段階から根強い疑問や反対があるにもかかわらず、財界や官邸主導で進められ、公平性や公正性の疑問が残ったままでした。

さらに、導入ありきで進めたため、ここに至って準備不足が露呈しており、来年4月からの民間検定の会場、日程、要項を受験生に示すことができない状態です。

大阪府は公立高校入試で2017年度から、英語外部検定の入試活用を導入。英検2級なら80%、準1級なら100%の入試得点を保証するものと

なっています。これは福井県の公立高校入試で英検有資格者に5点の加点にとどめていることに比べて、極めて突出しています。

大学共通テストでの混乱、大きな批判や抗議が起きている点から見ても、学校教育に民間の英語検定を導入し、その結果をもとに「授業改善」を求めることは、学校教育の変質つながりかねません。大阪府でも民間英語検定の活用見直しを行うべきです。



相次ぐ反対 抗議の動き

○大学教授、大学入試センター副所長らが、制度に欠陥があると中止を求め、高校・大学教員らの800人分の請願書を国会に提出。
6月18日

○受験対応が困難で間に合わない、TOEICが入試活用からの離脱を表明。
7月2日

○全国高校長協会、文科省に「延期と制度見直し」求め要望書提出
9月10日

○入試改革中止を求め高校生ら抗議デモ
9月13日

○大学6割、高校9割が民間英語検定は「問題ある」
(朝日新聞・河合塾共同調査)
9月16日

連載 原水爆禁止世界大会に参加して④

記念公園と 資料館

午後は平和記念公園

と長崎原爆資料館に行きました。翌日にはセレモニーが行われるため、公園ではその準備が行われていました。当時の写真パネルも飾られていて、私と同じく大会に参加している人や外国人観光客が説明を読み込んでいる姿が多く見られました。公園内にある平和祈念像は、平和の象徴として被爆10年後に募金でつくられたそうです。戦争のない時代になって良かったなと思いがら写真を撮っていました。しかし、当時の人たちは「それだけお金を集めてくれるのなら、食材や復興するためのお金にまわしてほしかった」と言っていたそうです。それを聞いてやっと「確かに」と思

いました。

この二日間を通して、戦争により国民が良いと思えることが何一つ無いとたくさん感じました。何の罪も無いのにその場に偶然いたかたけれど服も家も食べ

資料館を見学して、爆が落とされる候補に大阪も入っていたことです。もし大阪に落とされていたら、私はもちろん、親も生まれてこなかったでしょう。資料の中には、真っ黒焦げの人のようなものや動物の死骸、建物の見当たらない景色の写真などがたくさんありました。手記などを読んでいても、『つらい、苦しい、助けて、痛い、こわい・・・』そんな負の感情ばかり。案内人の人がいたので、話を聞いてみると「(碌に食べていないから)お腹がすいているはずなのに、配給されたおにぎりも食べたいと思えなかった」と、写真を指しながら言ってい



(高南中・笠松弥央)